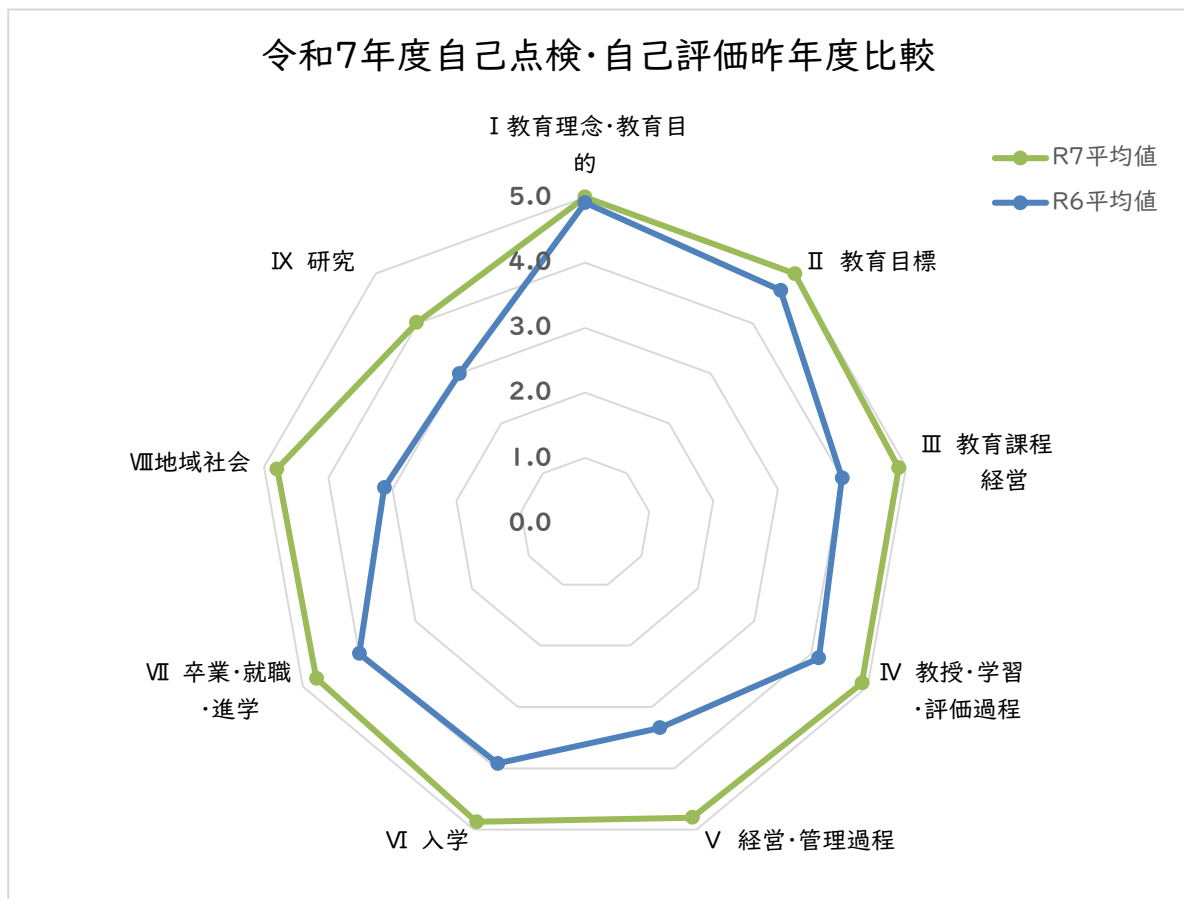


令和7年度土浦看護専門学校の学校評価

土浦看護専門学校の教育理念・教育目的は、「徳育」を教育基盤と捉え地域に根差して活躍できる心豊かな質の高い看護師育成を目指しています。この教育理念に基づく教育水準の維持・向上を図るため、平成26年度に第1回卒業生を出したことを機に、学校運営評価を実施しています。

評価は「看護師等養成所の教育活動等に関する自己評価指針」を基に、9領域109項目で構成され、5「非常に当てはまる」、4「当てはまる」、3「どちらともいえない」、2「当てはまらない」、1「非常に当てはまらない」の5段階で評価しました。

令和7年度の学校評価は以下の通りでした。



令和7年度の学校評価は、ほぼ全ての項目において評価が上がっています。

「I教育理念・目的」では、今年度は5名の教員の入職があり、本校の教育課程の考え方の勉強会を開催したことで、良い評価となりました。

「II教育目標」では新カリキュラムでの体制は整備されましたが、今後見直しも必要です。

「III教育課程経営」では、新カリキュラムの考え方が教職員・外部講師にも理解され、体制が整えられました。

実習施設とは事前の打ち合わせをし、実習終了後は振り返りを行っているため連携が取れており、学生の学びの保障と患者の権利は尊重されています。また、インシデント・アクシデント事例

の把握、分析をして教員・学生にフィードバックし、再発防止に努めています。

「IV教授・学習・評価過程」では、授業内容と教育課程の一貫性についての評価は、昨年度より上がっています。新カリキュラムの運用が定着しましたが、教員全員で十分な見直し・検討ができていないため、引き続き検討していく必要があります。

実習に関しては教育理念が反映されるように評価表を見直したところ、評価が上がっています。

「V経営・管理」では、管理者が変わり、教職員へ学校の方針が伝わりやすくなりましたが評価は昨年度と同様です。その理由として、今年度教員の半数が入職者だったため、設置者と管理者の考え方の理解が浅く評価は昨年と同様だったと考えます。

学生生活の支援では、担任制をとっており、各担任を中心に学習支援、健康管理、進路選択の支援を行っています。

「VI入学」では、今年度ホームページをリニューアルし、今までは学校事務窓口または郵送のみだった募集要項をダウンロードできるように改善しました。また、総合選抜型試験・社会人入試制度を導入しましたが、今年度は受験者数の増加にはつながりませんでした。社会情勢や受験者のニーズを捉え、本校の強みを生かした募集活動を計画していきます。

「VII卒業・就職・進学」では、ほとんどの学生が実習病院に就職し、就職率は100%でした。

国家試験対策は業者による国家試験対策プログラムを導入、また今年度よりチューター制を導入しましたが、昨年度より合格率は下がり、様々な課題が見つかりました。それらの課題を解決し、合格率上昇を目指して指導をしていきたいと考えます。進学に関しては、今年度もいなかったため、勧めていきたいと考えます。

「VIII地域社会」では、霞ヶ浦総合公園のイルミネーションのポスターに、協賛金協力として学校の名前が掲載されました。また、土浦市コミュニティバスの停留所に「土浦看護専門学校前」のアナウンス(有料)を依頼して情報を発信しています。さらに、今年度は土浦イオンで行われたイベントに協力する、など地域社会へ貢献しています。

「IX研究」では、教員たちは研修会に参加し、自己研鑽に努めています。茨城県教員連絡会の研修会や各領域の会議にも参加し、情報交換や他校の教員とのつながりを持つことができました。研究活動に関しては、今年度は学会への参加ができなかったため、学会に参加できるようにしていきたい。

令和7年度 学校関係者評価結果

評価項目		評価の概要
I	教育理念 教育目的	<ul style="list-style-type: none"> ・理念、目的は教員及び学生にとっての確固たる指針となっていると考えます ・教育理念、目的が明確で実現するための取り組みができています ・一貫した教育理念である
II	教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・原則現状で良いと考えるが、見直し、再評価は必要と考えます ・教育目標に沿って教育が明確になされている
III	教育課程経営	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の専門性を発揮できる授業の担当ができるようになると良いと考えます ・体系的なカリキュラム運営が実施され実習指導者との連絡・連携がとれている
IV	教授・学習 評価・過程	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の展開過程も大変工夫があり、素晴らしいと考えます ・実習評価表の見直しがされそれぞれの項目で評価が上がっており、努力がみられる
V	経営・管理過程	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化の時代、学生の確保が難しそうだ ・設置者と管理者が学校経営に関する課題を共有し、改善に向けてさらに連携を教化できるとよい
VI	入学	<ul style="list-style-type: none"> ・入学希望者、新入学生が年々減少している。専門学校を志望している人自体が減少 ・受験生の取り合いではなく、看護協会等にももっと努力して貰って受験者全体を増やす努力を！ ・社会人が多いため、多様性を受け入れている学校であると感じます ・学校に興味を持っている近隣住民がいるため対象に向けアピールできれば入学につながるのではないかと
VII	卒業・就職 進学	<ul style="list-style-type: none"> ・徳育の成果か、学生の態度はとても良い ・合格率や学生への課題等があるため、今後の取り組みに期待する
VIII	地域社会	<ul style="list-style-type: none"> ・職員、学生の更なる社会参加を期待する ・地域社会への貢献として継続的な工夫を行っており、情報発信できています ・地域と学校に何らかのつながりがあると学校の特色や教育活動を知ってもらえるかもしれない ・地域社会に大いに貢献している
IX	研究	<ul style="list-style-type: none"> ・忙しいとは思いますが、なるべく多くの研修会等に参加し、情報をUPDATEして行って欲しい ・教員の研究活動ができるよう、さらに工夫が必要だと考えます ・研究活動を積極的に行っており看護実践に生かす姿勢がみられている

